



①宿泊客と挨拶を交わす本白水さん ②庭先につるされた「からいも」 ③だっきしょ豆腐 ④でんぶん汁 ⑤「民宿しろみず」
⑥夕食に並んだ家庭料理の数々 ⑦一緒に星空を眺める ⑧食事後の団らん ⑨チェックアウト後、握手でお別れ



大阪府岸和田市から観光で来鹿
北浦さん(左)、中村さん親子(中・右)

3人でよく旅行に出かけますが、鹿屋は初めて。大阪のテレビで鹿屋の農家民宿を見て、ぜひ泊まりたいと思い、鹿屋を目指して来ました。実際に宿泊して、本白水さんご夫婦の人柄、田舎散策、五右衛門風呂などどれも最高の思い出になりました。「だっきしょ」「ねったぼ」「でんぶん汁」など普段都会では食べられない料理や和牛「日本一」の地で食べるお肉も感動でした。今度は夫や孫などを連れて、ぜひまた訪れたいです。

農家民宿で生まれる「出会い」と「田舎旅」

お待ちかねの夕食は、メインの牛肉のほか「がね」や「塩茹で落花生」、「でんぶん汁」など。鹿児島県の家庭料理の数々に、3人は興味津々です。

料理を味わいながら、本白水さんとの会話が弾みます。大阪と鹿児島、それぞれの地域の話や世間話など、話が尽きません。



夕食は鹿屋の家庭料理

「民宿しろみず」は鹿屋体育大学近くの小高い丘にあります。鹿児島湾越しに薩摩半島に沈む夕陽を、3人はゆっくりと眺めました。周囲には薪の燃える懐かしい匂いが広がっています。宿に戻ると、宿自慢の五右衛門風呂の準備がしてありました。熱々のお風呂に驚きつつも、交代で入浴すると、体はポカポカです。

夕食から朝食までの間、3人は満天の星空や昇る朝日を眺めることができました。どちらも「大阪では見られない光景」なのだそう。

朝食には、北浦さんが食べたがっていた「へちまの味噌汁」がありました。本白水さんのおもてなしです。

「本白水さんとの出会いと鹿屋ならではの体験に、最高の思い出ができました」。3人は民宿の「おもいで帳」に感想を残し、本白水さんとの別れを惜しみつつ、次の目的地へと向かいました。

おもてなしの心に感動

のんびりと田舎を散策

夕食までの時間、3人は民宿の周辺を散策することに。「民

農家民宿とは、自宅で宿泊サービスと農山漁村滞在型余暇活動を提供することで、宿泊料や体験料を得ることができる民宿のこと。法令改正による規制緩和により、農林漁業を営んでいない人でも旅館業の営業許可を取得し開業できるようになりました。

10月のある日、お客様が空港からレンタカーでやって来ました。事前に予約し訪れたのは、大阪府の北浦さんと中村さん親子の女性3人組。テレビで偶然見た鹿屋の農家民宿に興味を持ち、初めて鹿屋市を訪れました。3人は本白水さんご夫婦と初対面の挨拶を交わすと、部屋に荷物を降ろし、チェックインしました。

農家民宿の一日に密着

「民宿しろみず」は、今年3月に開業したばかりの新しい農家民宿。民宿を営む本白水正子さんは、以前から修学旅行生などの民泊を受け入れてきた経験を

持ちます。一般の人の宿泊も受け入れたいという思いから、貸店舗だった建物を自宅兼民宿として一部改装し、農家民宿を開業しました。客室として登録したのは7.5畳と4.5畳の和室です。

農家民宿とは



「民宿しろみず」を3月に開業
もとしろみず こうじ まさこ
本白水 幸司さん、正子さん(白水町)

開業して半年が過ぎ、宿泊されるお客様とご縁が生まれていくことを楽しんでいます。民宿に宿泊するお客様は、気さくな方が多いです。料理は、自宅の畑でとれる野菜を使った郷土料理。「美味しかった」と言われると嬉しくなります。お金をいただくので、安全安心に気をつけて、真心こめてゆっくりしてもらおうことを心がけています。鹿屋に来て良かったと思われるように、今後も続けていきたいです。



「農家民宿」、はじめました。

夕食でのひとコマ。一緒に食卓を囲めば、まるで家族のよう。

人柄も風景も最高！

家庭料理に癒されます。

出会いに感謝。

いま、「農家民宿」を開業する人が増えています。農家民宿を開業すれば、宿泊客に「体験」を提供し自宅に宿泊させることで、収入を得ることができます。宿泊客にとっては、より深くその土地の習慣や文化に触れることができるのも魅力です。一定の条件を満たせば、比較的簡単に開業することができますので、あなたも自宅を使って農家民宿を始めてみませんか。

市ふるさとPR課(2階) ☎0994-31-1121